

第二十一回 石井十次賞募集要領

『石井十次賞』にふさわしい人

または団体を推薦して下さい。



我が国における社会福祉事業の先駆者石井十次は、一八六五年（慶応元年）宮崎県高鍋町に生れ、一九一四年（大正三年）世を去るまで三千名を越す孤児の教育に生涯を捧げ、孤児の父として尊敬されており、世界の平和と人類の福祉をめざして、国際的役割と責任が求められているとき、物は得たが心を失ったともいわれる今日ほど、石井十次の人類愛と社会奉仕の崇高な精神を、認識し復興すべきときはないと思えます。このような状況のなかで、児童福祉に貢献し、石井十次の精神にふさわしい業績のある奉仕者を表彰し、我が国に於けるボランティア精神と、社会福祉に対する国民意識の高揚を図るため「石井十次賞」を贈り顕彰します。

◎主 旨

わが国児童福祉事業の先駆者である石井十次の人
類愛と社会奉仕の崇高な精神と実践を継承、発展さ
せることを目的として「石井十次賞」を贈る。

◎推 薦 先

千八四一〇〇六
宮崎県児湯郡高鍋町大字上江八一―三番地
（高鍋町教育委員会内）
財団法人 石井十次顕彰会

●対象となる業績

- 一、永年にわたり児童福祉事業の領域において、優れた業績をあげている施設、個人、団体。
- 二、児童福祉事業の実践に寄与する優れた調査、研究等の業績をあげた個人、団体。

◎選考委員

（五十音順）

●推薦方法

- 一、推薦者
○ 都道府県、政令指定都市の社会福祉協議会長
○ 財団法人石井十次顕彰会理事長が委嘱した推薦者
- 二、別紙推薦書
○ 都道府県、政令指定都市 各一件

●推薦期日

- 一、期 日 平成二十三年十二月二十日
（当日消印有効）

●賞

「石井十次賞」 一 件
本賞 「賞状」及び「楯」
副賞 「一〇〇万円」

◎その他

*受賞者の功績を広く全国に紹介します。
*くわしくは、財団法人石井十次顕彰会へ
お問合せ下さい。

●発 表

- 一、発表期日 平成二十四年三月上旬
- 二、贈呈式 平成二十四年四月十一日
高鍋町にて

TEL 〇九八三一―二三一四三二二
FAX 〇九八三一―二三一四三二二



◎ 石井十次賞の主旨

わが国児童福祉事業の先駆者である石井十次の精神と実践を継承し、発展させることを目的として創設。個人あるいは団体に対し、一点を選出し、毎年行うものとする。

◎ 石井十次とは

現在のように豊かな時代とは異なり、「福祉」という言葉さえ定着していなかった明治20年、22歳の若さで孤児救済の事業に着手した、石井十次は、1865年（慶応元年）宮崎県児湯郡高鍋町に生まれる。

十次は、岡山孤児院を創設し、さらに大阪の愛染園託児所、郷里の宮崎県に茶臼原孤児院などを設置し、日本における社会福祉事業の先駆者としてその生涯をささげた。明治24年濃尾大震災では、93名の災害児童を救済救護。院内に尋常高等小学校を設立し、一般家庭をはるかに上回る教育を実践し、また乳児里親制度の創設など福祉事業界に新生面を開いた。

明治39年東北地方大飢饉による孤、貧児800名を収容し、在院児1,200名にのぼった。

『君は、ほとんど他に類型なき存在の一人、聖僧の如く、英雄の如く常識者でもあり、非常識者でもあり、……』。時の文豪、徳富蘇峰は、十次が孤児たちで結成して全国を廻った音楽幻灯隊を前に、こう敬意と感謝の言葉を述べた。

大正3年、49歳で世を去るも、今も十次の精神は石井記念友愛社として引き継がれている。

審 査 基 準

石井十次先生の精神が生かされていることを
重点に次のとおり設定しました。

- 1 児童を 育て・学ばせ・働くの 3点を
みたしていること。
- 2 児童を養育する施設・地域における子育て
支援などに顕著な実績を修めていること。
- 3 期間、30年以上継続していること。
- 4 年齢、個人においては70歳以上であること。